

2016年1月18日

1月18日早朝、東京都心で6cmの積雪
スマホアプリ「ウェザーニュースタッチ」で
積雪量がひと目でわかる積雪予想マップを緊急配信
 ～19日は北日本で暴風雪に注意、20日は名古屋でも初雪の可能性～

株式会社ウェザーニューズ(本社：千葉市美浜区、代表取締役社長：草開千仁)は、スマホアプリ「ウェザーニュースタッチ」の「最新雪情報」内で、雪の影響をエリアごとに伝える「大雪ピンポイント天気」をバージョンアップし、地域別に積雪レベルがひと目でわかる積雪予想マップを緊急配信しました。1月17日から18日にかけて、本州の南海上を低気圧が発達しながら通過し、全国の広い範囲で降雪をもたらしました。18日午前6時に東京都心では6cmの積雪となり、交通機関が乱れたほか、積雪や路面凍結による転倒事故、停電なども相次ぎ、関東で大きな影響が出ました。18日13時現在、関東では南岸低気圧による雪のピークは越え、山沿いを除いて雨に変わりました。今後、発達した低気圧による大雪の範囲は北日本に移ります。18日夜から19日朝にかけて東北太平洋側の山沿いでは60～90cmの降雪となりそうです。また、18日夜～20日朝にかけて、北海道道東の太平洋側で60～90cmの降雪、オホーツク海側で90～120cmの記録的な大雪となる可能性があります。さらに、強い冬型の気圧配置と寒気の影響で、19日は九州北部や山陽、四国瀬戸内側でも雪となりそうです。20日は未明～明け方にかけて、名古屋市～京阪神の一部でも降雪や積雪の可能性がありますので、交通機関への影響にご注意ください。

◆積雪量がひと目でわかる積雪予想マップを緊急配信！

スマホアプリ「ウェザーニュースタッチ」の「最新雪情報」内で、雪の影響をエリアごとに伝える「大雪ピンポイント天気」に各地の積雪量がひと目でわかる積雪予想マップを追加しました。積雪2cm未満(芝生にうっすら)、2～5cm(道路にうっすら)、5～10cm(道路にしっかり)、10cm以上(道路にどっさり)と生活の影響に合わせて塗り分けており、積雪による影響も簡単に把握することができます。

「最新雪情報」では、雪や風のピーク時間・積雪・路面に関する予想はもちろん、鉄道の運転見合わせ・道路の通行止め・飛行機の欠航の可能性など、交通へ

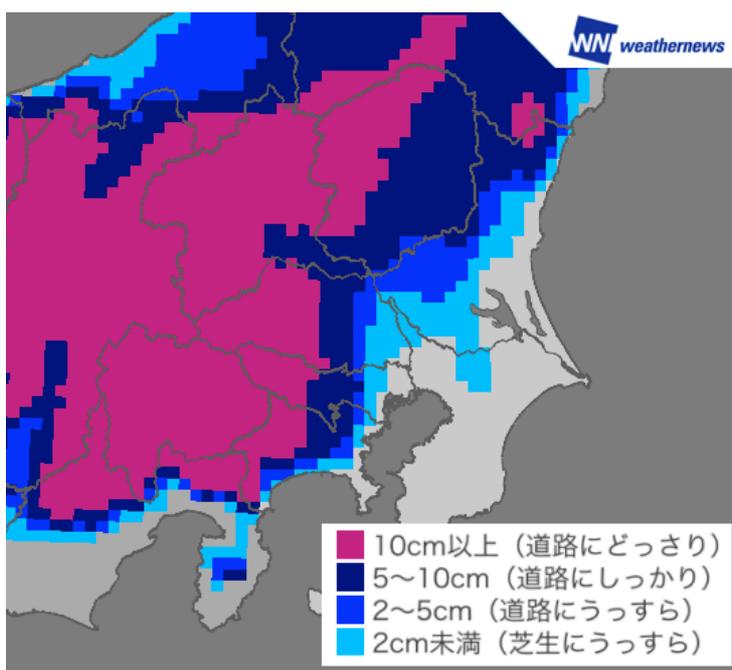


図1 イメージ図 積雪予想マップ (17日18時～18日6時)

「大雪ピンポイント天気」では都道府県別の積雪予想マップを確認できる

の影響に関する情報を都道府県別に公開しています。GPS を利用して自分の居場所に合わせた雪情報が見られるほか、都道府県別に確認できるため、出張や旅行先から自宅周辺の雪情報を知りたい時でもご活用いただけます。無理な外出は避けていただくのが一番ですが、外出される方は「最新雪情報」をご活用ください。

◆降雪・積雪の状況

都心における降雪は雪の降り方や積もり方によって交通機関に大きく影響するため、リアルタイムに把握することが非常に重要です。既存の気象観測網だけでは状況把握が難しい降雪状況や路面の積雪状況について、ウェザーニューズは、スマホアプリ「ウェザーニューズタッチ」を通して調査することで、最新の雪情報を共有することができました。

関東北部では17日21時から降雪のウェザーリポートが届きはじめ、18日0時前には東京からも雪の報告が寄せられました。この報告から、今回は千葉県浦安市と茨城県つくば市を南北に結んだ線が雨と雪の境界線となり、西側は雪のエリア、東側が雨のエリアであることがわかりました（図2）。

また、18日0時から13時まで、スマホアプリ「ウェザーニューズタッチ」を通して積雪状況に関する調査を行いました。“路面の状況は？”という質問に対して、「積雪無し」「芝生にうっすら」「道路にうっすら」「道路にしっかり」から選択してもらいました。東日本のウェザーリポーター合計8,730人の回答から、ウェザーリポートの雨雪報告の結果（図2）と同様の結果となりました（図3）。



図2 ウェザーリポーターから寄せられた天気報告
降雨と降雪の境界が把握できる

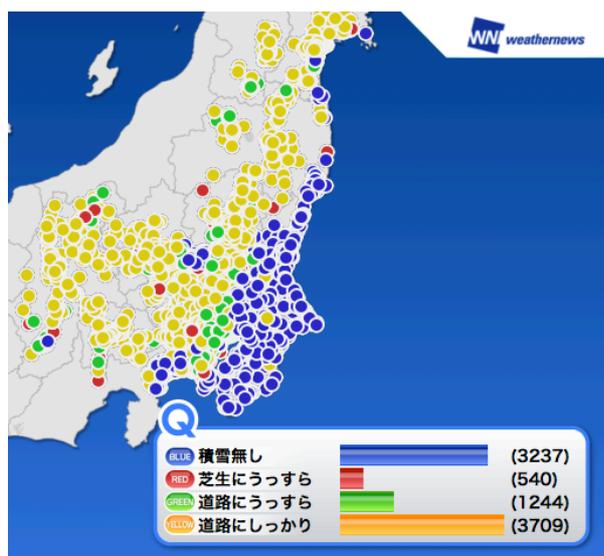


図3 ウェザーリポーターから寄せられた積雪報告
積雪した地域を把握できる

ウェザーニューズは、ウェザーリポーターからの報告を予報に反映し、より精度の高い情報の配信を目指していきます。